

2027年度

多文化コミュニケーション学科

総合型選抜入試課題

次の課題A～Cから1つを選び、800字以内で述べてください。

注意事項

○手書きの場合

指定された「課題レポート記入用紙」に記入してください。

○パソコンで作成する場合

Windowsで扱える文書ファイル（Word等）で作成し、A4縦用紙に横書きする。

ただし、行・文字数、間隔等の指定は特にありません。

※選択した記号（A～C）、希望学科、氏名の記入を忘れないでください

## 課題 A

### インバウンド促進へ協定…長崎空港ビルディングなど3社、外国人向け観光コンテンツの強化

長崎空港ビルディング（大村市）、長崎自動車（長崎市）、五島自動車（五島市）の3社は17日、インバウンド（訪日客）誘客促進に向け包括連携協定を結んだ。五島、長崎、大村を軸としたキリシタン史跡の巡礼ツアーなど、外国人向け観光コンテンツの強化を図る。

協定によると、3社は▽誘客に向けたプロモーション▽観光サービスの開発▽受け入れ環境の整備—などで協力する。交通事業者が訪日客促進で協定を結ぶのは県内初。

特にキリスト教徒が多い韓国をターゲットに、キリスト教の伝来と弾圧の歴史でつながる五島、長崎、大村を結ぶ旅行プランの商品化を目指す。5月には韓国人向けにツアーを先行実施し、空路やバスを使い3地域の史跡を巡った。

締結の背景には訪日客需要の取り込みで他県に後れを取っている実情がある。昨年度、長崎空港の国際線旅客数は6万9千人。福岡（938万2千人）、熊本（64万人）、佐賀（15万8千人）など九州の主要8空港で最も少ない。

長崎空港ビルディングの衛藤勇社長は「需要にどう応えるかだけでなく、需要そのものをつくり出す」と抱負。「誘客拡大には空港到着後のスムーズな2次アクセスと、魅力的な周遊プランが不可欠。空、陸、離島をつなぐハブ機能を発揮し、地域活性化のエンジンになりたい」と話した。

同空港で締結式があり、衛藤社長、長崎自動車の森田誠社長、五島自動車の浅野謙社長が協定書に署名した。

（出典）2026年6月22日 長崎新聞「インバウンド促進へ協定…長崎空港ビルディングなど3社、外国人向け観光コンテンツの強化」

<https://www.nagasaki-np.co.jp/kijis/?kijid=6db7eeb6e2fa4a7a8dc786c6ce7d9516/>

## 課題

上の文章を読み、長崎県のインバウンド促進のために、どのような観光プランを具体的に考えますか。あなたの提案を800字以内で書いてください。

## 課題 B

韓国に最も近い上対馬町で「国境マラソンIN対馬」…最多1447人、高橋尚子さんや猫ひろしさん  
らも力走

「国境マラソンIN対馬」（実行委員会主催、読売新聞社など後援）が28日、韓国に最も近い長崎県対馬市最北部の上対馬町で開かれた。今年で30回目を迎えた国際大会で、韓国の611人を含めこれまでで最多の計1447人がエントリーし、交流を深めながら健脚を競った。

三字田海水浴場を発着点にハーフ（約21キロ）と7.1キロの2種目が行われた。爽やかな晴天の下、沿道の声援を受けながら海沿いやアップダウンの激しいコースを走り抜けた。ゲストランナーに招かれたシドニー五輪女子マラソン金メダリストの高橋尚子さんや、リオ五輪男子マラソンにカンボジア代表で出場したタレントの猫ひろしさんらも力走を見せ、一般ランナーと手を取り合ってゴールするなどして大会を盛り上げた。

大会には約400人のボランティアが協力。給水や救護、通訳、弁当の提供などで運営を支えた。

「7.1キロ一般女子39歳以下」に初参加した韓国・仁川（インチョン）市のランナー（30）らは「風景がきれいで住民の声援もあり、楽しく走れた。来年も参加して日本の友達を作りたい」と意欲を示した。「ハーフ一般男子39歳以下」に出場した北九州市のランナー（35）は「2回目の参加で、初めて韓国のランナーに韓国語で自己紹介をした。緊張したけど、この大会で出会い、触れあうことができて良かった」と話した。

（出典）2026年6月29日 読売新聞オンライン「韓国に最も近い上対馬町で「国境マラソンIN対馬」…最多1447人、高橋尚子さんや猫ひろしさんらも力走」

<https://www.yomiuri.co.jp/local/kyushu/news/20260629-GYS1T00052/>

（一部改変）

## 課題

上の文章を読み、地域のスポーツを活用した国際交流の価値と可能性について、あなたの考えを800字以内で書いてください。

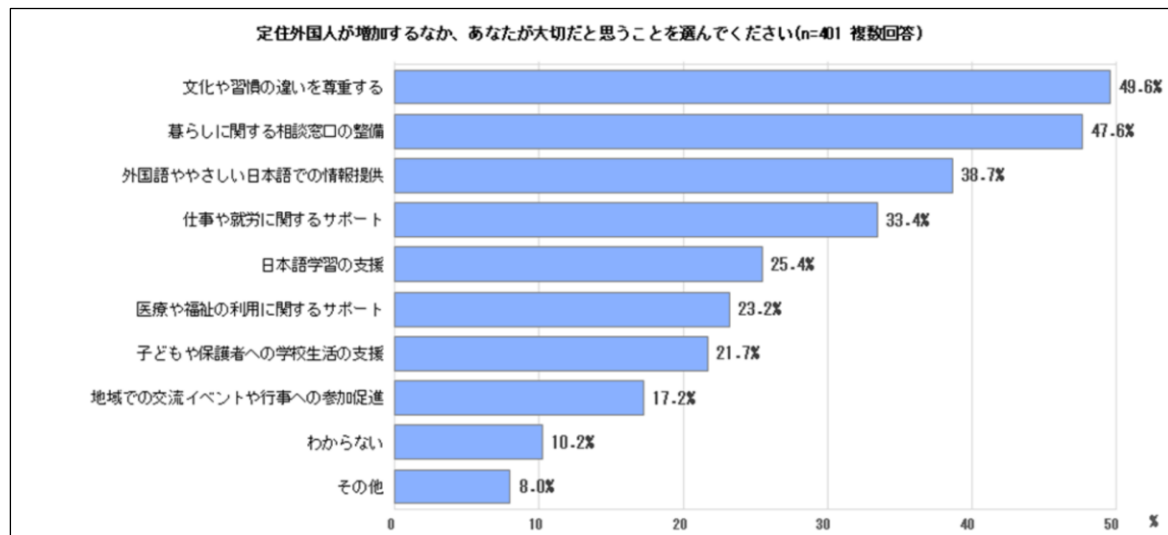
## 課題 C

### 定住外国人と多文化共生について

2025年8月に総務省がまとめた住民基本台帳に基づく人口統計によると、25年1月1日時点の日本に住む定住外国人は過去最多の367万7,463人となりました。このうち、長崎県内に住む定住外国人の数は、前年比15.9%増の1万5,434人となっており、年々その存在感が増しています。

(中略)

県内の定住外国人が増えるなか、具体的な変化として、「生活習慣やマナーの違いに戸惑うことがある」が22.9%と最も多く、次いで、「ごみ出しや騒音など、生活の中で困ることが増えた」が13.2%でした。このように生活の中で戸惑いや困りごとを感じているという声があるなか、「外国の文化や言語にふれる機会が増えた」11.2%、「地域ににぎわいや多様性が増した」10.5%と、ポジティブな変化を挙げる声も見られました。



定住外国人が増加するなか、あなたが大切だと思うことについて複数回答で尋ねたところ、「文化や習慣の違いを尊重する」(49.6%)と「暮らしに関する相談窓口の整備」(47.6%)がともに半数近くとなりました。次いで、「外国語ややさしい日本語での情報提供」38.7%、「仕事や就労に関するサポート」33.4%となっています。これらの結果から、多くの人が文化的な相互理解とともに、生活面での具体的な支援等が大切だと感じていることがうかがえます。

(出典) 2025年10月8日 ながさき経済web「定住外国人と多文化共生について」

<https://www.nagasaki-keizai.jp/survey/researchan/11941/> (一部抜粋)

## 課題

上記の文章を踏まえ、外国人住民と日本人住民が安心して共に暮らすためには、どのような取り組みが必要か。あなたの考えを800字以内で書いてください。

## 課題レポート記入用紙

※選択した課題に○をつけること

|      |  |     |  |
|------|--|-----|--|
| 希望学科 |  | 氏 名 |  |
|------|--|-----|--|

[illegible]

800字